

日本生命日比谷ビル

所在地 東京都千代田区有楽町
用途 事務所・劇場
竣工年度 1963年
所有者 日本生命保険相互会社
設計者 (有)村野・森建築事務所
施工者 (株)大林組
三機工業(株)
維持管理者 大星ビル管理(株)



【審査評】 昭和38年に竣工した村野藤吾の代表作（昭和39年日本建築学会作品賞受賞）である。竣工当時から現在に至るまで、建物の前面に広がる日比谷公園の緑と調和し、人々の印象に残る都心の景観を形づけている。

建物は、児童文化振興を目的としたホールとオフィスに分かれているが、いずれも日本生命の所有で、自社ビルとして維持保全にあたっている。建物を印象づける外装は万成産花崗岩小叩き仕上げ、旧帝国ホテルや日比谷公園などの環境と調和し、永遠に魅力を感じる、優雅で偉容を保つものでありたいという設計上の視点から、この外装デザインが決められている。

街角の一部となっているピロティの床の大理石モザイク、ホールのアコヤ貝仕上げの天井やガラスモザイクの壁面など、建物内には設計者の豊かな感性に基づく、芸術性の高いデザインが随所に見られる。これらの建築の要素は、高度のクラフトマン・シップに支えられたものであり、今や貴重な文化的価値を持つものである。

建物の所有者は、この価値を十分に認識し、外装、ホール、ホワイエ、ロビーなどのデザインを、竣工時の状況を変えることなく、時代のニーズに合わせてつ維持保全をすることを、運営管理の基本方針としている。建物の具体的な維持保全には、オーナーである日本生命のこの建物に対する誇りと愛情が感じられ、きめ細かい対応がなされている。

その結果、建設された時点の建築の質を損なうことなく建物が維持されている点を高く評価したい。維持保全は、実施体制から最終的な保守点検を行う業者に至るまで細かく定められ、それぞれの点検対象に対しては、ビル管理準則により、チェックリストに定められる頻度で細かく点検なされるように配慮されている点も特筆に値しよう。

このような建物所有者の建物に対する熱意と誇りにより、日本生命日比谷ビルは今後も東京のランドマークであり続けるであろう。